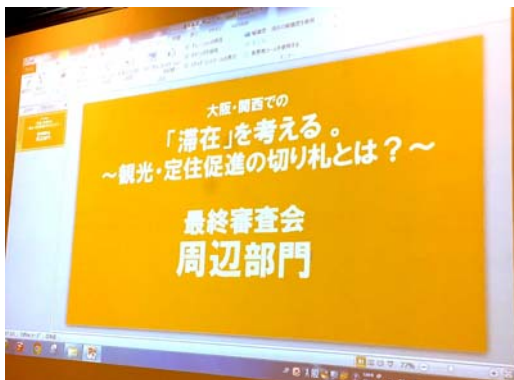


大阪・関西「滞在」を考えるシンポジウム開催

10月22日(土)大阪府主催、大学間連携研究発表会『大阪・関西での「滞在」を考える～観光・定住促進の切り札とは?～』の最終審査会が開催され当金庫は賛同企業として、CSR推進部執行役員梅田部長が審査員を務めました。

このシンポジウムは、インバウンド需要が一時的に終わらないように、観光や定住促進の基本となる「滞在」にフォーカスし、新たな仕掛けを関西圏の大学が連携して社会に提案するものです。大阪に「滞在」してもらう仕掛けや、今「滞在」している人たちを捉えて離さない「定住」までを見据えた仕掛けなど、これまでにないエッジの効いた提案が多く、内容の濃いシンポジウムとなりました。



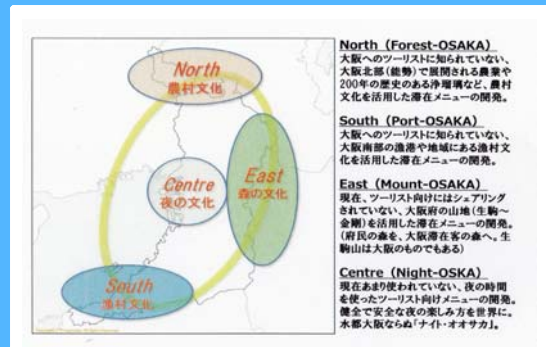
3部門に分かれて発表(周辺部門)



様々な「滞在」への仕掛けが発表されました！！

知事賞(最優秀賞)

大阪府立大社会人大学院生と大阪市立大社会人大学院生有志グループ



「ふとした、しあわせ」に出会える、空間・時間・体験を創り出す。

「フシタシアワセ」とは、「府(大)と市(大)足し合わせ」による、大阪「滞在」のための「ふとした、しあわせ」。大阪全体に創造的な空間を作り出すべく、大きく4つのエリアにゾーニングし、エリアそれぞれの特徴的な文化を資源として観光客に向けてシェアリング。